

第1章 令和6年の福島県経済の概況

1 概 要

【総合判断】

令和6年（2024年）の福島県経済は、緩やかな持ち直しの動きがみられたものの、全体としては足踏み状態が続いた。

令和6年の福島県の経済を振り返ると、緩やかな持ち直しの動きがみられたものの、全体としては足踏み状態が続いた。

個人消費を見ると、百貨店・スーパー販売額、コンビニエンスストア販売額、乗用車新規登録台数は前年を下回り、専門量販店販売額は前年を上回った。

建設需要をみると、公共工事請負金額及び新設住宅着工戸数は前年を下回り、業務用建築物着工工事費は前年を上回った。

生産活動をみると、生産指数、出荷指数はともに前年を上回った。

雇用・労働をみると、新規求人倍率や有効求人倍率は前年を下回り、現金給与総額指数、常用雇用指数は前年を上回ったものの、所定外労働時間指数は前年を下回った。

2 個別指標の国と福島県の比較

令和6年の日本経済は、名目GDPや設備投資が過去最高を更新するなど明るい兆しが見られた。春闘では大幅な賃上げが実現し、物価と賃金の好循環が生まれつつあるが、賃金の伸びが物価上昇に追いつかず、個人消費は力強さに欠けている。景気回復は長期化しているものの、先行きには慎重な見極めが求められ、経済は成長軌道への移行の分岐点にある。

令和6年個別指標の全国と県の比較（前年比の差）

国の上昇幅＜県の上昇幅	業務用建築物着工工事費
国の上昇幅＞県の上昇幅	専門量販店販売額、現金給与総額指数、常用雇用指数、消費者物価指数、金融機関預金残高、金融機関貸出残高
国は下降したが県では上昇	鉱工業生産指数、鉱工業出荷指数
国は上昇したが県では下降	百貨店・スーパー販売額、コンビニエンスストア販売額、公共工事請負金額
国の下降幅＞県の下降幅	該当なし
国の下降幅＜県の下降幅	乗用車新規登録台数、新設住宅着工戸数、所定外労働時間指数

図1-2-1 令和6年個別指標の前年比レーダーチャート

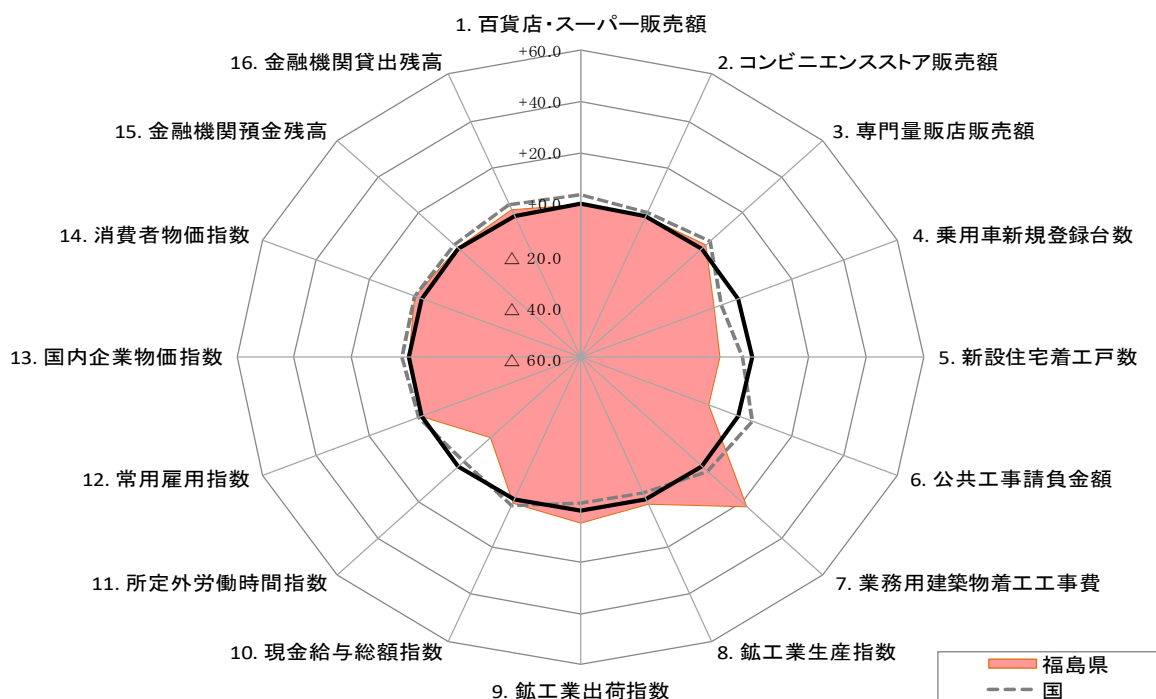


表1-2-1 令和6年個別指標の前年比及び差

個別指標		国 (前年比%)	福島県 (前年比%)	差(県-国) (ポイント)
個人消費	1. 百貨店・スーパー販売額	+3.6	△ 0.3	△ 3.9
	2. コンビニエンスストア販売額	+1.2	△ 0.1	△ 1.3
	3. 専門量販店販売額	+4.5	+2.1	△ 2.4
	4. 乗用車新規登録台数	△ 6.7	△ 9.3	△ 2.6
建設需要	5. 新設住宅着工戸数	△ 3.3	△ 11.0	△ 7.6
	6. 公共工事請負金額	+5.0	△ 11.1	△ 16.1
	7. 業務用建築物着工工事費	+3.1	+22.3	+19.3
生産活動	8. 鉱工業生産指数	△ 2.6	+2.3	+4.9
	9. 鉱工業出荷指数	△ 3.2	+4.8	+8.0
労働	10. 現金給与総額指数	+2.8	+1.5	△ 1.3
	11. 所定外労働時間指数	△ 2.7	△ 15.8	△ 13.1
	12. 常用雇用指数	+1.2	+0.4	△ 0.8
物価	13. 国内企業物価指数	+2.3	—	—
	14. 消費者物価指数	+2.7	+2.7	+0.0
金融	15. 金融機関預金残高	+2.3	+0.5	△ 1.8
	16. 金融機関貸出残高	+4.7	+2.6	△ 2.1

※ 国内企業物価指数は国の値のみ、消費者物価指数は福島市の調査結果。

※ 令和6年の各指標の前年比について、景気に対して累進性(増加することで景気が回復しているとみられる)がある指標をレーダーチャートで表した。景気に対して逆進性(増加することで景気が後退しているとみられる)がある指標、前年比ではなく前年差でみる指標などについては、P.6以降を参照。

※ 端数処理のため、差(県-国)の値が一致しないことがあります。

3 福島県経済の四半期別の概要

【個人消費】

百貨店・スーパー販売額(全店舗ベース)は、第1四半期を除き前年を下回った。

コンビニエンスストア販売額は、第3四半期を除き前年を上回った。

専門量販店販売額は、全期で前年を上回った。

乗用車新規登録台数は、第3四半期を除き前年を下回った。

【建設需要】

新設住宅着工戸数は、第2四半期を除き前年を下回った。

公共工事請負金額は、第3四半期を除き前年を下回った。

業務用建築物着工工事費は、第1四半期、第4四半期は前年を下回ったが、第2四半期、第3四半期は前年を上回った。

【生産活動】

鉱工業生産指数(季節調整済指数)及び**鉱工業出荷指数(季節調整済指数)**は、第1四半期、第2四半期は前年を上回ったが、第3四半期、第4四半期で前年を下回った。

【労働】

現金給与総額指数は、全期で前年を上回った。

所定外労働時間指数は、全期で前年を下回った。

常用雇用指数は、第4四半期を除き前年を上回った。

【物価】

国内企業物価指数は、全期で前年を上回った。

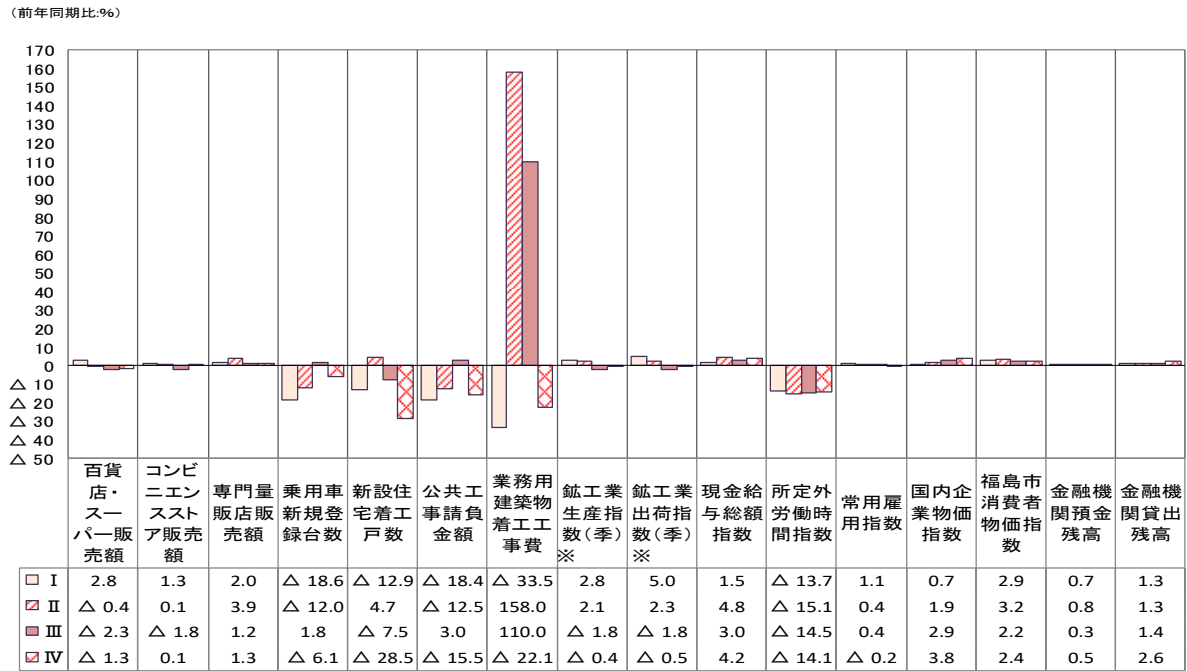
福島市消費者物価指数は、全期で前年を上回った。

【金融】

金融機関預金残高は、全期で前年を上回った。

金融機関貸出残高は、全期で前年を上回った。

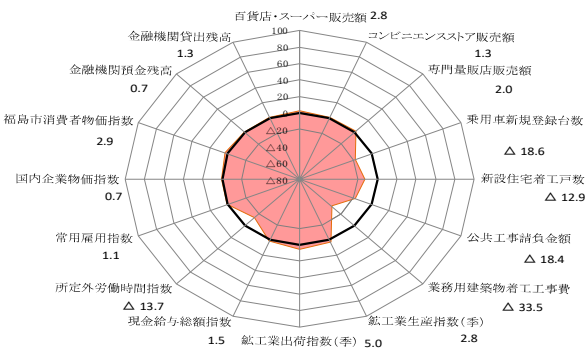
図1-3-1 主要指標毎の前年同期比の推移



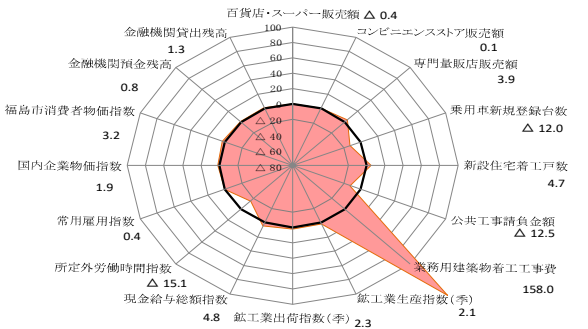
※ 鉱工業生産指数及び鉱工業出荷指数は前期比。

図1-3-2 主要指標の四半期毎前年同期比のレーダーチャート

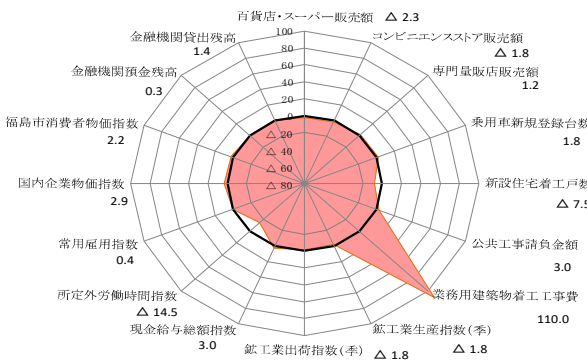
県(第1四半期平均)



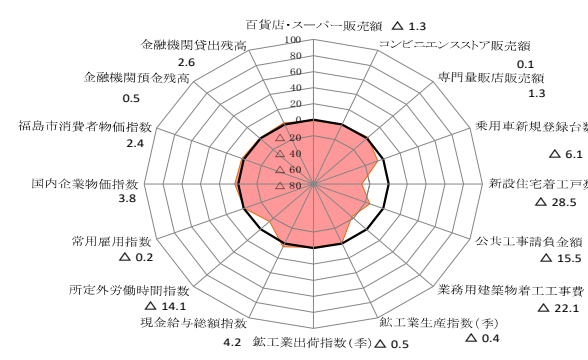
県(第2四半期平均)



県(第3四半期平均)



県(第4四半期平均)



4 主要な個別指標の概要

○ 指標名及びグラフのマーカーの色の見方について

- 1 指標名の色について、年値が前年と比較して、改善している指標は緑字、悪化している指標は赤字、同水準である、または個別には判断のつかない指標は灰色で表しています。
- 2 グラフのマーカーの色について、四半期値が前年同期(前期)と比較して、改善している指標は緑色(■)、悪化している指標は赤色(■)、同水準である、または個別には判断のつかない指標は灰色(■)で表しています。(「前期」と比較している指標は「鉱工業指数、求人倍率、貸出約定平均金利、日経平均株価、円相場、景気動向指数」)
- 3 第1四半期は「1～3月期」、第2四半期は「4～6月期」、第3四半期は「7～9月期」、第4四半期は「10～12月期」です。

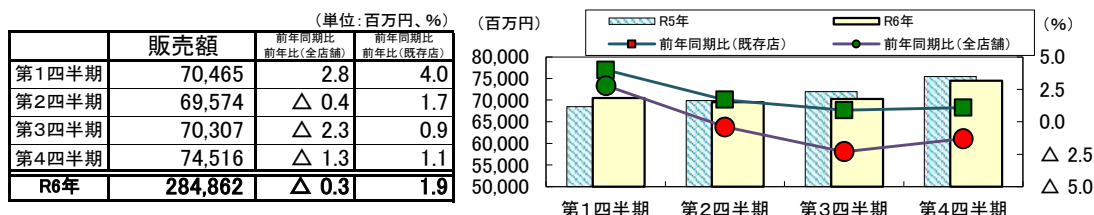
個人消費

前年からの
変化方向

一部に弱い動きがみられた。

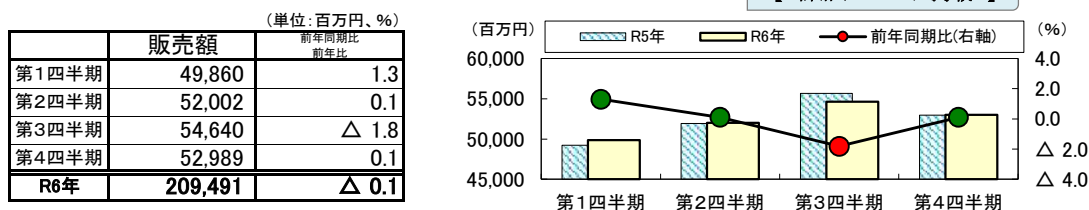
- (1) **百貨店・スーパー販売額**は全店舗ベースで総額2,848億62百万円、前年比0.3%減となり、3年振りに前年を下回った。

【 詳細は P.14に掲載 】



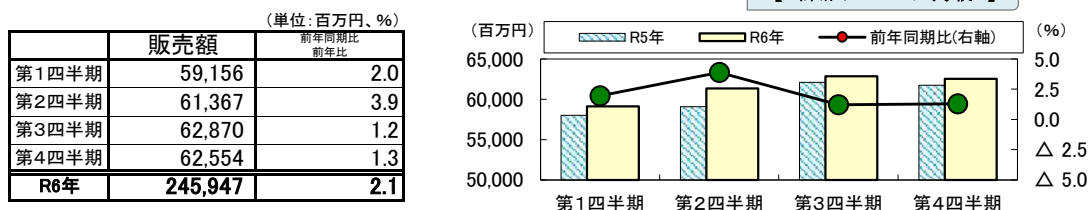
- (2) **コンビニエンスストア販売額**は総額約2,094億91百万円、前年比0.1%減となり、3年振りに前年を下回った。

【 詳細は P.16に掲載 】



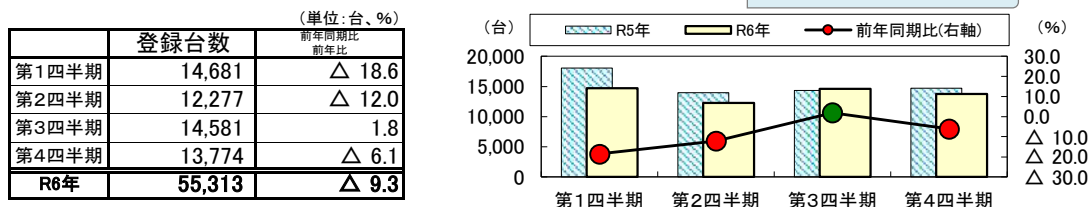
- (3) **専門量販店販売額**は2,459億47百万円、前年比2.1%増となり、10年連続で前年を上回った。

【 詳細は P.16に掲載 】



- (4) **乗用車新規登録台数**は55,313台、前年比9.3%減となり、2年振りに前年を下回った。

【 詳細は P.18に掲載 】



建設需要

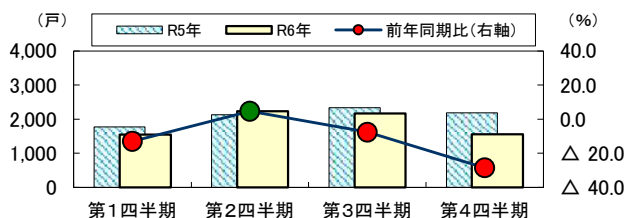
前年からの
変化方向

公共工事は復興事業の進捗により弱い動きが続いたものの、民間需要の一部には持ち直しの動きがみられた。

- (1) **新設住宅着工戸数**は7,517戸、前年比11.0%減となり、8年連続で前年を下回った。

【 詳細は P.20に掲載 】

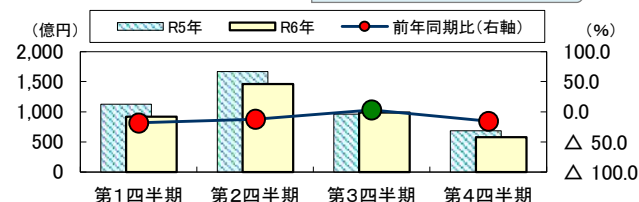
(単位: 戸、%)		
	着工戸数	前年同期比 前年比
第1四半期	1,547	△ 12.9
第2四半期	2,236	4.7
第3四半期	2,169	△ 7.5
第4四半期	1,565	△ 28.5
R6年	7,517	△ 11.0



- (2) **公共工事請負金額**は総額約3,947億円、前年比11.1%減となり、4年連続で前年を下回った。

【 詳細は P.22に掲載 】

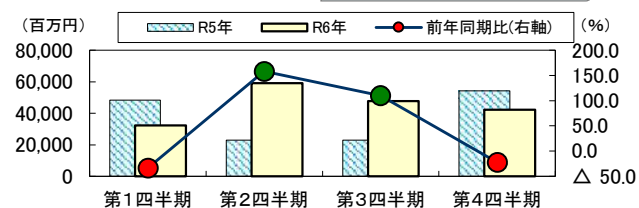
(単位: 億円、%)		
	請負金額	前年同期比 前年比
第1四半期	921	△ 18.4
第2四半期	1,457	△ 12.5
第3四半期	991	3.0
第4四半期	577	△ 15.5
R6年	3,947	△ 11.1



- (3) **業務用建築物着工工事費**は総額約1,814億99百万円、前年比22.3%増となり、3年連続で前年を上回った。

【 詳細は P.24に掲載 】

(単位: 百万円、%)		
	着工工事費	前年同期比 前年比
第1四半期	32,186	△ 33.5
第2四半期	59,281	158.0
第3四半期	47,880	110.0
第4四半期	42,152	△ 22.1
R6年	181,499	22.3



生産活動

前年からの
変化方向

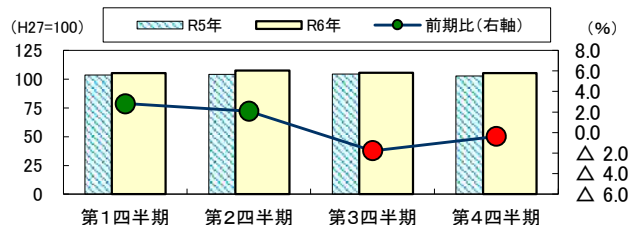
一進一退の状況が続いた。

- (1) **鉱工業生産指数(原指数)**は106.2(R2=100)、前年比2.3%増となり、3年振りに前年を上回った。

【 詳細は P.26に掲載 】

(単位: R2=100, %)

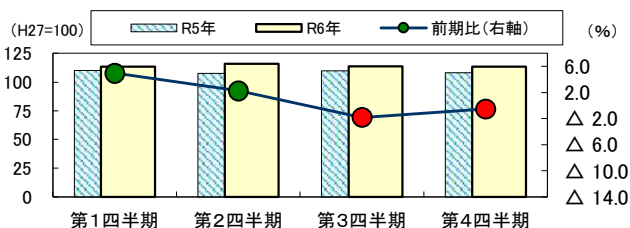
	生産指数	前期比(季節調整値) 前年比(原数値)
第1四半期	105.5	2.8
第2四半期	107.7	2.1
第3四半期	105.8	△ 1.8
第4四半期	105.4	△ 0.4
R6年	106.2	2.3



- (2) **鉱工業出荷指数(原指数)**は114.2(R2=100)、前年比4.8%増となり、4年連続で前年を上回った。

(単位: R2=100, %)

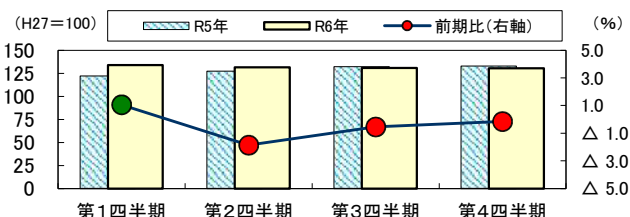
	出荷指数	前期比(季節調整値) 前年比(原数値)
第1四半期	113.4	5.0
第2四半期	116.0	2.3
第3四半期	113.9	△ 1.8
第4四半期	113.3	△ 0.5
R6年	114.2	4.8



- (3) **鉱工業在庫指数(原指数)**は131.9(R2=100)、前年比2.4%増となり、3年連続で前年を上回った。

(単位: R2=100, %)

	在庫指数	前期比(季節調整値) 前年比(原数値)
第1四半期	134.2	1.1
第2四半期	131.7	△ 1.9
第3四半期	131.0	△ 0.5
第4四半期	130.8	△ 0.2
R6年	131.9	2.4



雇用・労働

前年からの
変化方向

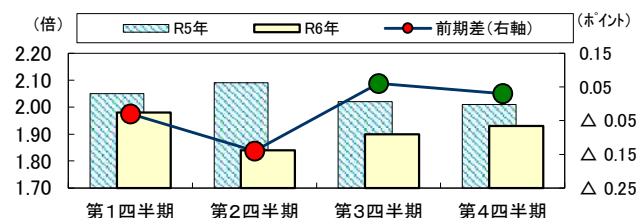
弱い動きがみられた。

- (1) **新規求人倍率(原数値)**は1.92倍、前年差0.11ポイント下降し、2年連続で前年を下回った。

【 詳細は P.30に掲載 】

(単位: 倍、ポイント)

	倍率	前期差 前年差
第1四半期	1.98	△ 0.03
第2四半期	1.84	△ 0.14
第3四半期	1.90	0.06
第4四半期	1.93	0.03
R6年	1.92	△ 0.11

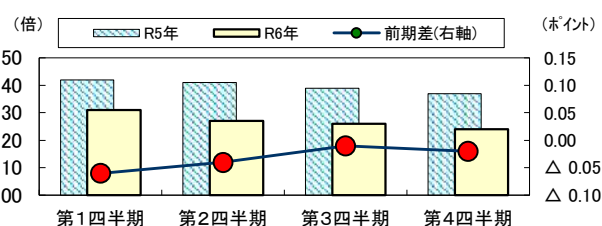


- (2) **有効求人倍率(原数値)**は1.27倍、前年差0.12ポイント下降し、2年連続で前年を下回った。

【 詳細は P.32に掲載 】

(単位:倍、ポイント)

	倍率	前期差 前年差
第1四半期	1.31	△ 0.06
第2四半期	1.27	△ 0.04
第3四半期	1.26	△ 0.01
第4四半期	1.24	△ 0.02
R6年	1.27	△ 0.12

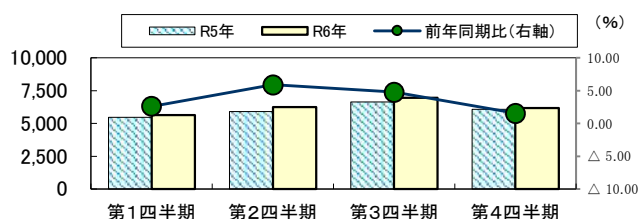


- (3) **雇用保険(基本手当基本分)受給者実人員**は年間平均で6,257人、前年比3.8%増となり、4年振りに前年を上回った。

【 詳細は P.34に掲載 】

(単位:人、%)

	受給者実人員	前年同期比 前年比
第1四半期	5,627	2.6
第2四半期	6,264	5.9
第3四半期	6,960	4.8
第4四半期	6,178	1.6
R6年	6,257	3.8

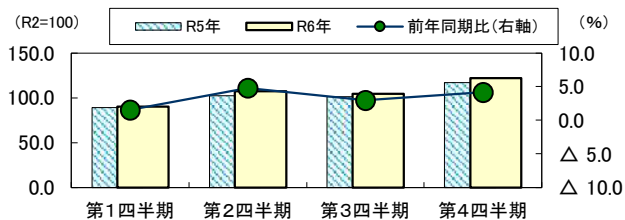


- (4) **現金給与総額指数(事業所規模5人以上)**は106.0、前年比1.5%増となり、2年振りに前年を上回った。

【 詳細は P.36に掲載 】

(単位: R2=100、%)

	指数	前年同期比 前年比
第1四半期	90.4	1.5
第2四半期	107.4	4.8
第3四半期	104.2	3.0
第4四半期	122.0	4.2
R6年	106.0	1.5

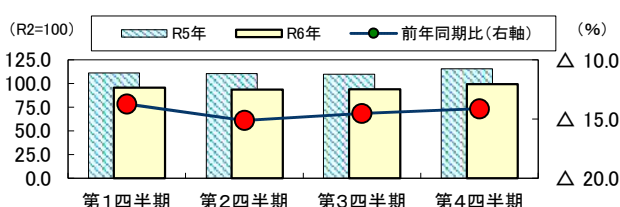


- (5) **所定外労働時間指数(事業所規模5人以上)**は95.7、前年比15.8%減となり、2年連続で前年を下回った。

【 詳細は P.36に掲載 】

(単位: R2=100、%)

	指数	前年同期比 前年比
第1四半期	95.7	△ 13.7
第2四半期	93.6	△ 15.1
第3四半期	94.0	△ 14.5
第4四半期	99.3	△ 14.1
R6年	95.7	△ 15.8

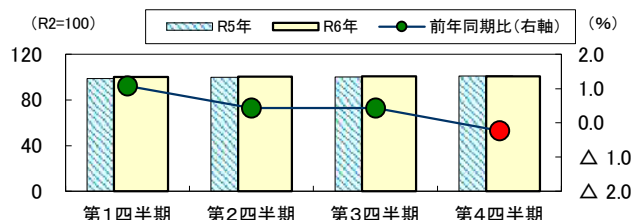


- (6) **常用雇用指数(事業所規模5人以上)**は100.4、前年比0.4%増となり、3年連続で前年を上回った。

【 詳細は P.38に掲載 】

(単位: R2=100、%)

	指数	前年同期比 前年比
第1四半期	100.1	1.1
第2四半期	100.3	0.4
第3四半期	100.6	0.4
第4四半期	100.5	△ 0.2
R6年	100.4	0.4



物 価

前年からの
変化方向



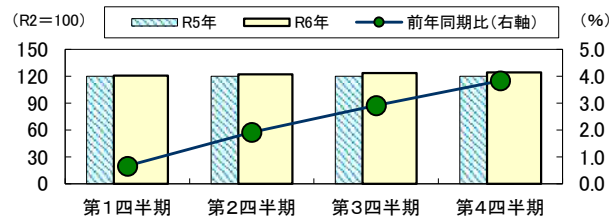
企業物価指数及び消費者物価指数はともに上昇した。

- (1) **国内企業物価指数(総平均)**は122.6、前年比2.3%増となり、
4年連続で前年を上回った。

【 詳細は P.40に掲載 】

(単位: R2=100、%)

	指数	前年同期比 前年比
第1四半期	120.6	0.7
第2四半期	122.2	1.9
第3四半期	123.3	2.9
第4四半期	124.5	3.8
R6年	122.6	2.3

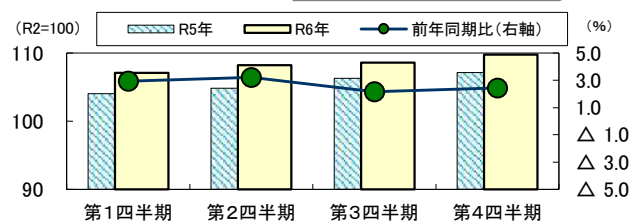


- (2) **福島市消費者物価指数(総合)**は108.4、前年比2.7%増となり、
3年連続で前年を上回った。

【 詳細は P.42に掲載 】

(単位: R2=100、%)

	指数	前年同期比 前年比
第1四半期	107.1	2.9
第2四半期	108.2	3.2
第3四半期	108.6	2.2
第4四半期	109.8	2.4
R6年	108.4	2.7



企業・金融

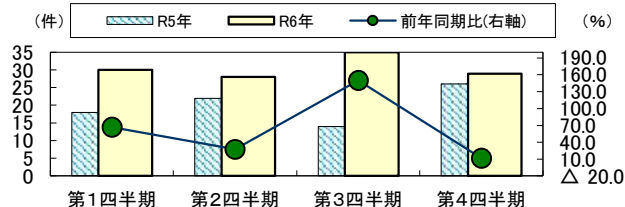
前年からの
変化方向

企業倒産の件数及び負債総額はともに前年を上回った。
預金残高及び貸出残高はともに前年を上回った。

- (1) **企業倒産件数**は122件、前年比52.5%増となり、
3年連続で前年を上回った。

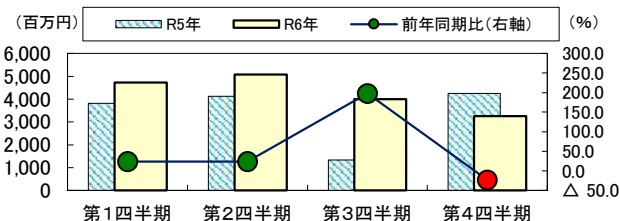
【 詳細は P.44に掲載 】

(単位:件、%)		
	件数	前年同期比 前年比
第1四半期	30	66.7
第2四半期	28	27.3
第3四半期	35	150.0
第4四半期	29	11.5
R6年	122	52.5



- 企業倒産負債総額**は170億48百万円、前年比26.0%増となり、
4年連続で前年を上回った。

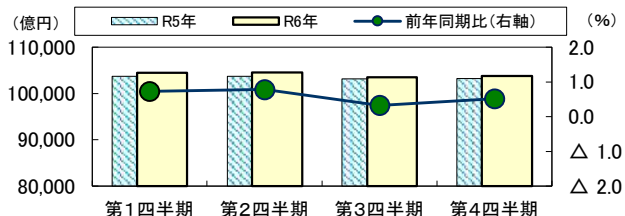
(単位:百万円、%)		
	負債総額	前年同期比 前年比
第1四半期	4,714	23.4
第2四半期	5,080	23.4
第3四半期	3,993	198.0
第4四半期	3,261	△ 23.2
R6年	17,048	26.0



- (2) **金融機関預金残高**は総額10兆3,768億円、前年比0.5%増となり、
2年連続で前年を上回った。

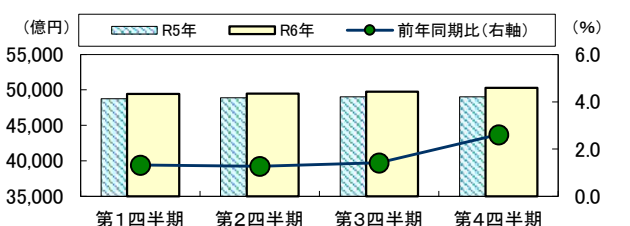
【 詳細は P.48に掲載 】

(単位:億円、%)		
	預金残高	前年同期比 前年比
第1四半期	104,490	0.7
第2四半期	104,521	0.8
第3四半期	103,548	0.3
第4四半期	103,768	0.5
R6年	103,768	0.5



- 金融機関貸出残高**は総額5兆284億円、前年比2.6%増となり、
14年連続で前年を上回った。

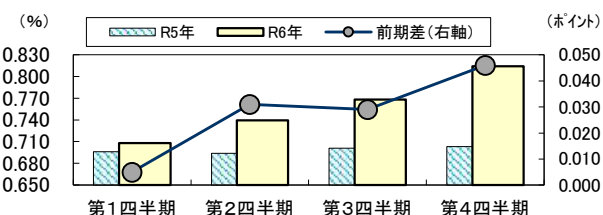
(単位:億円、%)		
	貸出残高	前年同期比 前年比
第1四半期	49,436	1.3
第2四半期	49,511	1.3
第3四半期	49,725	1.4
第4四半期	50,284	2.6
R6年	50,284	2.6



- (3) **貸出約定平均金利**は地方銀行で0.814%、
前年差0.111ポイント上昇となった。

【 詳細は P.50に掲載 】

(単位:%、ポイント)		
	金利	前期差 前年差
第1四半期	0.708	0.005
第2四半期	0.739	0.031
第3四半期	0.768	0.029
第4四半期	0.814	0.046
R6年	0.814	0.111



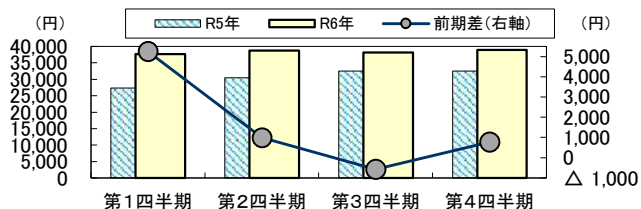
市 場

株価は上昇し、円相場は円安となった。

- (1) 日経平均株価(225種、期中平均値)は38,396円74銭、前年差7,680円19銭高となり、2年連続で前年を上回った。

【 詳細は P.52に掲載 】

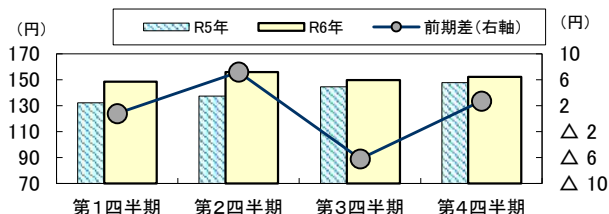
	株価	(単位:円) 前期差 前年差
第1四半期	37,730.85	5,252.04
第2四半期	38,720.24	989.39
第3四半期	38,152.34	△ 567.90
第4四半期	38,931.95	779.61
R6年	38,396.74	7,680.19



- (2) 東京外国為替市場の円相場(対米ドル、期中平均値)は151円59銭、前年差11円安となり、4年連続で円安となった。

【 詳細は P.52に掲載 】

	円相場	(単位:円) 前期差 前年差
第1四半期	148.56	0.78
第2四半期	155.75	7.20
第3四半期	149.56	△ 6.20
第4四半期	152.29	2.73
R6年	151.59	11.00



景気動向指数

下降基調で推移した。

- (1) 福島県景気動向指数(CI一致指数)は下降した。

【 詳細は P.54に掲載 】

	CI一致指数	(単位:ポイント) 前期差 前年差
第1四半期	124.5	△ 2.2
第2四半期	119.1	△ 5.4
第3四半期	111.0	△ 8.1
第4四半期	113.4	2.4
R6年	113.4	△ 13.3

(四半期値及び年値は期末値)

